



## 熊本県学校体育功労賞を受賞して

菊陽町立武蔵ヶ丘中学校 校長 中尾幸治

この度、令和五年度熊本県学校体育功労賞という栄えある賞を受賞し、たいへん恐縮いたしますとともに、これまでお導きいただきました諸先輩方やともに学校体育の充実に取り組んだ皆様に心から感謝申し上げます。

私が体育教師を志したのは、小学校時代にサッカーを指導してくださった園田弘實先生のご指導がその出発点です。昭和四十年代でしたが、先生は私たち児童に一人の人間として同じ目線で接してくださいました。勢いに任せて叱ることはもちろん、失敗を責めるなど絶対にされませんでした。今でも覚えているのは先生の満面の笑顔と「よし、いいぞ!」といった勇気づけのことばです。園田先生とのつながりでその後大変お世話になる元大津高校サッカー部監督の遠山和美先生とも出会うこととなります。高校は地元の玉名高校に進みました。中学校では何でもできる、分かると思っていた自分がちっぽけな存在に思えるような情けない三年間を過ごしました。それでも、その後私が体育教師になる決意をするご縁をいただいたのが、保健体育の緒方謙二郎先生です。当時、何の目標も持てなかった私に自分を変える勇気を与えていただきました。私はその後、福岡大学体育学部に進みサッカー部に入部。鳴かず飛ばずで四年間を過ごすも、なんとか教員免許だけはとって卒業。

初任の菊鹿町立菊鹿中学校（現在は山鹿市）、再配置の産山村立産山中学校（現在の産山学園）を経て、平成7年に大津町立菊阿中学校に着任したことで菊池郡市中体研・中体連の先生方と出会わせていただきました。当時の中学校体育は男女共習の波が訪れており、県中学校保健体育研究発表大会では菊池からバレーボールの男女共習授業を提案したことを覚えています。当時の菊池郡市中体研・連のメンバーは、それはそれはエネルギーで教科指導においても部活動指導においても常に切磋する雰囲気があり、懇親会の二次会でさえ指導方法等について熱く持論を闘わせ合う姿がありました。そんな先輩方の姿を見るにつけ、「よし、自分は菊池で頑張ろう。」と決意しました。皆さんは「菊池の桜」をご存じでしょうか。昭和の歌をアレンジした菊池の「魂の歌」です。「菊池はひとつ」の合い言葉のもと、現在のメンバーも親しい中にも切磋琢磨する姿勢を持ち続けながら生徒と真剣に向き合っています。だからこそ、コロナ禍の四年間も生徒の活動成果の発表場面をなんとか作りたいと熟議し、さまざまな対応策を講じながら子どもたちを笑顔にする取組を探求し続けてきました。私は、令和二年から四年間、菊池郡市中体研・連会長を務め、本年度は県中体研・連副会長を仰せつかりましたが、新垣前会長・古賀現会長とともに県下の中学生が夢と描く県中学総体および体育教師の学びを牽引する県学体研の運営に携わらせていただいたことは、私のにとってこの上ない学びであり、功労賞受賞に勝るとも劣らぬ誉れと感謝しております。

最後になりましたが、アフターコロナの新たな学校文化の創造、部活動の地域移行などさまざまな課題に直面する今、本研究会及び本連盟のますますの発展と会員の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、感謝の言葉とさせていただきます。